

令和 2 年 7 月 5 日現在

機関番号：34509

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2018～2019

課題番号：18K18492

研究課題名（和文）新派映画と「新派的なるもの」の系譜学

研究課題名（英文）The Genealogy of Shinpa Films and the Shinpa Genre

研究代表者

上田 学（Ueda, Manabu）

神戸学院大学・人文学部・准教授

研究者番号：80546143

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：共同研究では、まずThe Twenty-Second Asian Studies Conference Japan（国際基督教大学、2018年7月）のパネルで、谷口紀枝、上田学、小川佐和子、スザンネ・シェアマンが発表者を、木下千花がディスカッサントを務め、新派映画に関する研究の現状や、同時代の演劇や文学との生成関係、観客の受容空間などを議論した。さらに計四回の研究会を開催し、上田、谷口、小川、シェアマンの発表にもとづき、児玉竜一、木下、土田牧子に加え、オブザーバーに斉藤綾子（明治学院大学）、河野真理江（立教大学）他が参加し、新派映画に関する広汎な議論がおこなわれた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果にもとづき、神戸発掘映画祭2019（神戸映画資料館、2019年10月）のプログラム「明治大正期の新派映画」を共催し、児玉竜一が「新派」の定義と演劇史・映像史的な変形について、上田学が新派映画の東アジアにおける連環について、一般向けの解説をおこなった後、早稲田大学演劇博物館所蔵『朝顔日記』『生さぬ仲』から作成した新プリントほか1作品の新派映画を上映し、成果を社会的に発信した。また、本研究の学術的な成果については、上田、小川、谷口が学術論文にまとめ、『映画学』（34号、2021年発行予定）の特集として発表予定である。

研究成果の概要（英文）：At the Twenty-Second Asian Studies Conference Japan (International Christian University, July 2018), Norie Taniguchi, Manabu Ueda, Sawako Ogawa, and Susanne Schermann presented our joint research study on shinpa films during a panel hosted by Chika Kinoshita, discussing the current research on shinpa films, the relationship between theater and literature, and the audience reception space. Then, we held four study sessions based on presentations by Ueda, Taniguchi, Ogawa, and Schermann, in addition to Ryuichi Kodama, Kinoshita, Makiko Tsuchida, and observers Ayako Saito (Meiji Gakuin University) and Marie Kono (Rikkyo University), in which the issues surrounding shinpa films were widely discussed in the contexts of film studies, theater studies, and comparative cultural studies.

研究分野：映画史

キーワード：映画学 映像学 演劇学 芸能史 日本文学

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究の対象である新派映画というジャンルは、日本映画の「後進性」を示す事例としてのみ、長らく論じられてきた経緯がある。そのような日本映画史の理解は、大正期の新派映画のフィルムがほとんど現存しておらず、研究の方途がなかったという要因が大きい。しかし、早稲田大学演劇博物館が所蔵する新派映画のフィルムが、文部科学省共同利用・共同研究拠点早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点テーマ研究「演劇博物館所蔵映画フィルムの調査、目録整備と保存活用」(2009～2014年度)によりデジタル変換されて一般に公開され、本格的な研究利用の方途が開けた。

(2) 新派映画を女形と連鎖劇を「後進性」でくくる旧来の学知の克服こそが、日本映画史に新たな視点をもたらすことになると考えられる。第一に、新派映画の女形が醜悪な表象だったという誤解は、女性の映画観客を想定していない視点に基づくものである。その再考は、男性中心の映画史観を補正し、観客のジェンダーを視野に入れた日本映画史の再構築をもたらすことが期待される。第二に、実演と組み合わせられた連鎖劇は、新派映画のプリミティブな表現が生み出したものであるという誤解は、現在の演劇上演に映像がもはや不可欠なほど普及している状況を考え合わせるべきである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、従来の映画研究で捨象されてきた、新派映画というジャンルの研究を通じて、日本映画史を再構築する視点を生み出すことにある。新派映画とは、大正期の日本映画において、旧劇映画(後の時代劇映画)と並ぶ二大ジャンルを構成した映画群の総称である。具体的には、明治大正期を物語の舞台とし、プロットは同時代の新派劇を継承して、男性演じる女形がヒロインを務めていた。そのため、従来の映画研究においては、二つの点で、外国映画とは異なる、日本映画の「後進性」を示す事例として取り上げられてきた。第一に、ヒロインが女形という男性によって演じられている点である。これは、新派映画が醜悪な表象だったという誤解を生み出した。第二に、しばしば連鎖劇という、新派劇の実演を組み合わせられた興行で上映されていた点である。これは、新派映画が映画単独の物語表現に至っていない、未熟な段階にあったためと理解されてきた。しかし本研究はむしろ、このような「後進性」こそが、後に日本映画独自のオルタナティブな表現形式を生み出す要因となったことを明らかにすることで、従来の日本映画史の偏りについて、再検討を試みた。

3. 研究の方法

本研究は、新派映画の「後進性」こそが、古典的ハリウッド映画をはじめとする外国映画とは異なる、日本映画における独自の表現形式を生み出す要因となったことを明らかにするために、三つの視点を取り上げ、現存するフィルムおよびノンフィルム(非映像資料)の渉猟から実証的研究をおこなった。

本研究における三つの視点の第一は、(1)歌舞伎や人形浄瑠璃の「世話物」と新派映画の連続性である。新派映画は、新派劇のみならず、新劇、新聞小説、流行歌といった日本近代の諸文化を、映画が取り込むことで発生したジャンルであるが、新派映画の形式的な起源を前近代に求めるならば、人形浄瑠璃や歌舞伎といった近世芸能における「世話物」にさかのぼることができる。

第二に、(2)西洋の翻訳・翻案文学を起源とする新派映画という視点である。異なる芸術・文化間の物語の再生産は、国内にとどまるものではなく、日本近代においては欧米からの影響も多大であった。外国映画をもとに日本映画が製作されること、外国映画をもとに翻案劇が上演され、さらに映画化されること、西洋の翻訳・翻案文学をもとに映画や演劇の脚本が書かれること、これらの現象はとりわけ新派映画の同時代に頻出する現象であった。

第三に、(3)メロドラマ映画に連なる新派映画の系譜という視点である。新派映画は、古典的ハリウッド映画の影響下において「現代劇」という装いのもと、メロドラマ映画というジャンルへと変化していく。興行上、便宜的にあてがわれたメロドラマ映画というジャンルを自明視するのではなく、つまり西洋的価値観に基づくメロドラマの概念を日本映画に安易に適用するのではなく、新派映画の系譜をあらためて見直し、戦後映画の「新派的なるもの」の概念を再考することを試みる。

4. 研究成果

(1) 2018年度は、まず国際学会の The Twenty-Second Asian Studies Conference Japan (国際基督教大学、2018年7月1日)で、“The Genealogy of Shinpa Films from the Early Era to after the War”と題したパネルを小川佐和子が組織し、谷口紀枝、上田学、小川、スザンネ・シェアマンが発表者を、木下千花がディスカッサントを、シェアマンがチェアを務め、新派映画

に関する研究の現状や、同時代の演劇や文学との生成関係、観客の受容空間などについて、議論を深めた。また上田と児玉竜一が、「八千代座に甦るサイレント映画たち」(熊本県山鹿市八千代座、2018年9月1日)のシンポジウム「大正時代の映画と演劇の劇場風景」で、日本の無声映画に関して、地方における受容や、新国劇との関係についての招待講演をおこなった。さらに、日活向島の新派映画と同時代の連鎖劇について、上田が文献資料にもとづく調査を進め、研究会で「新派映画をめぐる問題系 田中栄三と連鎖劇を中心に」と題した研究発表をおこない、シェアマン、小川、谷口と、新派映画の形式や興行を中心に議論を重ねた(新長田勤労市民センター、2018年10月26日)。

(2)2019年度は、前年度に実施した研究会等での議論と関連資料の調査を踏まえ、まず上田学、スザンネ・シェアマン、児玉竜一、木下千花、谷口紀枝、小川佐和子、土田牧子による研究会を開催した(国立映画アーカイブ、2019年6月15日)。先行研究で十分に論じられてこなかった、戦前期の8作品の新派映画を特別映写観覧により調査した後、オブザーバーの斉藤綾子(明治学院大学)を交え、新派映画の定義と形式、インターメディアリティに関する議論をおこなった。続いて、神戸発掘映画祭2019のプログラム「明治大正期の新派映画」を共催し(神戸映画資料館、2019年10月27日)、児玉が「新派」の定義と演劇史・映像史的な変形について、上田が新派映画の東アジアにおける連環について解説をおこなった後、調査成果にもとづき早稲田大学演劇博物館所蔵『朝顔日記』『生さぬ仲』から作成した新プリントほか1作品の新派映画を上映し、研究成果を社会的に発信した。さらに、研究会を開催し(早稲田大学、2020年2月3日)、谷口、小川、シェアマンによる研究発表、および河野真理江(立教大学)による招聘講演と、上田、土田、斉藤ほかを交えた、新派映画とメロドラマ、比較文化に関する広汎な議論がおこなわれた。これらの研究成果については、上田、小川、谷口が学術論文にまとめ、『映画学』(34号、2021年発行予定)の特集として、その成果を発表予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Ueda, Manabu	4. 巻 -
2. 論文標題 Screening Spaces: A History of Japanese Film Exhibition	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Japanese Cinema Book, edited by Hideaki Fujiki and Alastair Phillips (London and New York: British Film Institute)	6. 最初と最後の頁 126-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 木下千花	4. 巻 2019年8月号
2. 論文標題 女形としての女優 『藤十郎の恋』におけるパフォーマンス	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『ユリイカ』	6. 最初と最後の頁 71-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kinoshita, Chika	4. 巻 -
2. 論文標題 Spectral Bodies: Matsui Sumako and Tanaka Kinuyo in The Love of Sumako the Actress (1947)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Japanese Cinema Book, edited by Hideaki Fujiki and Alastair Phillips (London and New York: British Film Institute)	6. 最初と最後の頁 243-258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Taniguchi, Norie	4. 巻 -
2. 論文標題 How Newspaper Novels and Their Illustrations Shaped Japanese Films	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The 2018 Proceedings of Domitor	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷口紀枝	4. 巻 -
2. 論文標題 新派的な音色の行方 松竹現代劇映画とSP盤映画説明レコード『二人静』（1935）の検証を通して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『日本大学芸術学部 日本大学研究員 研究報告書 第18回』	6. 最初と最後の頁 4-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ogawa, Sawako	4. 巻 -
2. 論文標題 The First World War and Japanese Cinema: From Actuality to Propaganda	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The East Asian Dimension of the First World War: Global Entanglements and Japan, China, and Korea, 1914-1919, edited by Jan Schmidt and Katja Schmidt (Frankfurt and New York: Campus Verlag)	6. 最初と最後の頁 159-182
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 上田学	4. 巻 35
2. 論文標題 朝鮮映画の「満洲国」への進出 雑誌『満洲映画』の関連記事を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本思想史研究会会報	6. 最初と最後の頁 185-195
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 Manabu Ueda
2. 発表標題 Screening Spaces of Shinpa Films: Narrations and Cinemas during the 1910s
3. 学会等名 The Twenty-Second Asian Studies Conference Japan (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Susanne Schermann
2. 発表標題 No Blood Relation in Literature, on Stage, and in Film
3. 学会等名 The Twenty-Second Asian Studies Conference Japan (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sawako Ogawa
2. 発表標題 Influence of Kabuki and Bunraku on Shinpa Films and Genealogy towards Melodrama
3. 学会等名 The Twenty-Second Asian Studies Conference Japan (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Norie Taniguchi
2. 発表標題 Shinpa Films and Traditional Japanese Mass Entertainment Culture
3. 学会等名 The Twenty-Second Asian Studies Conference Japan (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上田学
2. 発表標題 映画興行における九州・熊本
3. 学会等名 八千代座に甦るサイレント映画たち (八千代座) (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 児玉竜一
2. 発表標題 『忠次旅日記』と新国劇と九州巡業
3. 学会等名 八千代座に甦るサイレント映画たち（八千代座）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 児玉竜一
2. 発表標題 無声映画と歌舞伎研究
3. 学会等名 TALKING SILENTS (UCLA/The Billy Wilder Theater) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 田中ゆかり（編）・金水敏（編）・児玉竜一（編）・吉川邦夫・大森洋平	4. 発行年 2018年
2. 出版社 笠間書院	5. 総ページ数 135
3. 書名 時代劇・歴史ドラマは台詞で決まる	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	シェアマン スザンネ (Schermann Susanne) (00318651)	明治大学・法学部・専任教授 (32682)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	児玉 竜一 (Kodama Ryuichi) (10277783)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	木下 千花 (Kinoshita Chika) (60589612)	京都大学・人間・環境学研究科・准教授 (14301)	
研究分担者	谷口 紀枝 (Taniguchi Norie) (70782697)	日本大学・芸術学部・研究員 (32665)	
研究分担者	小川 佐和子 (Ogawa Sawako) (90705435)	北海道大学・文学研究院・准教授 (10101)	
研究分担者	土田 牧子 (Tsuchida Makiko) (30466958)	共立女子大学・文芸学部・准教授 (32608)	